■チラシ・フライヤー：B4_2つ折り_横
（ 紙のサイズ 257×364mm　仕上がりサイズ 182×257mm ）

表面は表紙になる部分のご指示をお願い致します　※トンボ外への記載、入稿時のコメント欄など

天

182mm

182mm

Program

モーツァルト： ヴァイオリン･ソナタ ト長調 KV. 301 (293a)

W.A. Mozart : Sonate für Klavier und Violine G Dur KV. 301
Ⅰ. Allegro con spirito
Ⅱ. Allegro

ヴァイオリン・　ソナタ　ト長調 K. 301 (293a) は、第25番から第30番までの6曲の「パリ・ソナタ」の1番目の作品である。1778年パリで作品1として出版されたため、「パリ・ソナタ」と総称される。また、プファルツ選帝侯妃マリア・エリーザベトに献呈されたことから「マンハイム・ソナタ」とも総称される。
シュースターの影響で生まれた新しい様式のヴァイオリン・ソナタの第1作にあたり、ピアノとヴァイオリンの有機的で協奏的な融合が光る作品であり、二重奏ソナタの内容を呈している。「いくらかハイドン風」だとも言われている。

バッハ ： パルティータ ニ短調　BWV 1004 ヴァイオリン ソロ

J.S. Bach : Partita d moll BWV 1004 für Violine Solo
Ⅰ. Allemanda
Ⅱ. Corrente
Ⅲ. Sarabanda
Ⅳ. Giga
Ⅴ. Ciaccona

無伴奏ヴァイオリンのためのソナタとパルティータBWV1001-1006は、3曲ずつのソナタ（BWV番号は奇数）とパルティータ（BWV番号は偶数）合計6曲からなり、ヴァイオリン独奏の楽曲として、ドイツバロック派の明確な伝統にのっとって書かれている。作曲時期は1720年、バッハが35歳、ケーテン宮廷楽長として、音楽好きの君主レオポルト侯に仕え、多くの世俗曲（協奏曲、室内楽曲）を書いていた頃の楽曲である。
このパルティータ第2番 ニ短調 BWV 1004は4曲の舞曲のあとに、有名なシャコンヌが置かれており、この曲集の頂点の一つを形成するもので、全体に重音奏法が多く、類を見ない力強さと複雑さを備えている。演奏は容易ではないが古今の名作の一つに数えられている。
パルティータとは組曲という意味で、シャコンヌとはバロック時代の一種の変奏曲の様式のことである。

休憩　Pause

パガニーニ ： ヴァイオリン ソロ Opus 1 / 13, 16, 14

N. Paganini : 3 Capricen für Violine Solo Opus Ⅰ / 13, 16, 14

ニコロ・パガニーニ（1782~1840）はイタリアのヴァイオリニスト、ヴィオリスト、ギタリストであり、作曲家である。特にヴァイオリンの超絶技巧奏者として名高い。
24の奇想曲からなる作品1は、ヴァイオリン独奏曲。無伴奏曲なので、ヴァイオリンの重音奏法や、視覚的にも演奏効果の高い左手ピッツィカートなど強烈な技巧が随所に盛り込まれた作品。ヴァイオリン演奏家には難曲中の難曲に挙げられている。
第13番はアレグロ、変ロ長調、6/8拍子。ダ・カーポ3部形式。第1部の響きから「悪魔の微笑み」という俗称を持つ。シューマンの「練習曲作品3第4」の原曲。第16番はプレスト、ト短調、3/4拍子。16分音符による無窮道。シューマンの「練習曲作品3第6」の原曲。第14番はモデラート、変ホ長調、2/4拍子。重音と三重音、四重音による軍隊行進曲風の旋律が重音奏法で処理される明快な曲。

チャイコフスキー ：セレナーデ メランコリック Op. 26
メロディ Op. 42 No. 3
ワルツ- スケルツォ Op. 34

P.I. Tschaikowski
Sérénade Mélancolique Op. 26
Melodie Op. 42 No. 3
Valse – Scherzo Op. 34

チャイコフスキー（1840～1893）は、メランコリックな旋律と絢爛豪華な作曲で大変人気の高いロシアを代表する音楽家。
セレナーデ メランコリック（憂鬱なセレナード）作品26は、サンクトペテルブルク音楽院教授を務めていた名ヴァイオリニストであるレオポルト・アウアーの依頼により、1875年1月から2月にかけてモスクワで作曲されたヴァイオリンと管弦楽のための作品で後にヴァイオリンとピアノのための作品が作られた。
メロディ　変ホ長調は1878年の3月から5月にかけてウクライナの別荘地ブライーロフで作曲されたヴァイオリンとピアノのための3曲からなる小品集 作品42「なつかしい土地の思い出」の3曲目で今では独立した楽曲として演奏されている。
ワルツ・スケルツォは、1877年に作曲され翌78年にパリで初演。ヴァイオリンの華やか技巧の中にもチャイコフスキーらしいロシア風の上品な曲想が特徴となっている。

メンデルスゾーン　歌の翼にのりて Op. 34 （ハイフェッツ版）

B.Mendelssohn : Lieder Op. 34 (Bearbeitung Ahron)
Auf den Flügeln des Gesangs

１８３４年、デュッセルドルフでゲヴァントハウス管弦楽団の指揮者をしていたメンデルスゾーンが２５歳のときに書いた「愛の歌」、「春の歌」、「ズライカ」 などが含まれている 『六つの歌曲』 のなかの第２曲目。当時はおとぎの国と考えられていた遠い東洋の国インドに恋人である君を連れて行こうとロマンティックに歌う歌詞は、１９世紀最大のロマン派詩人ハイネの詩集 『歌の本』 におさめられている 「叙情挿曲」 からとられている。
メンデルスゾーンは裕福な銀行家の家庭に生まれ育ち、恵まれた生涯をおくったことが 作風にも現れ、上品で明るい美しさに満ちた曲が多く、アルペジオの伴奏にのって流れるようななだらかなメロディのこの曲も、 優雅な、ロマンの香り高い曲として広く親しまれ、彼の歌曲の代表作となっている。
演奏曲はハイフェッツによってヴァイオリンのために編曲されたもの。

地

●水色の枠線……切れてはいけない要素（文字やロゴ等）をいれる範囲
●ピンクの枠線…仕上がりのサイズ
●みどりの枠線…フチなし印刷にする場合、背景を伸ばす範囲

★★★ PDFに変換して入稿される場合 ★★★
「表示」>「スライドマスター」画面より、色つきのガイド線を消してから変換してください